

東京都立光明養護学校と戦後肢体不自由教育史

社会福祉学部 丹野傑史

1. 研究の過程

報告者は、大学院生の頃から一貫して、戦後肢体不自由教育史のなかでも東京都立光明養護学校（現東京都立光明学園，以下光明¹⁾）の教育課程および教育実践、特に肢体不自由に応じた指導である「治療」に焦点をあてて研究を行ってきた。このうち、1950年代後半から1960年代にかけての学習指導要領成り立²⁾については、博士論文「東京都立光明養護学校における教員による治療の実践と変容」にまとめた。

博士課程修了後は、1971年の学習指導要領改訂により新設された「養護・訓練」の成立過程、指導体制の定着過程について研究に取り組んでいる³⁾。「養護・訓練」の指導体制の定着過程については、光明に加えて「動作訓練⁴⁾」の普及に大きな役割を果たした学校の1つであると考えられる筑波大学附属桐が丘養護学校（現筑波大学附属桐が丘特別支援学校）を対象に研究を行っている。

2. 研究の状況

現在は、主に以下の観点から研究活動を進めている。

- ・光明における歴史資料の保存に向けた資料整理及び電子化
- ・東京都における養護・訓練指導体制整備の過程、特に指導者の確保と指導内容の整理
- ・動作訓練の肢体不自由教育への導入過程

3. 歴史的研究者

報告者は、学校史を扱っているが、いわゆる「歴史研究者」ではない。今日の「自立活動⁵⁾」の課題を明らかにするための一方法論、あるいは一対象として「歴史」を対象としている。先行研究が少ないため研究の過程において「歴史的事実の検討」も行っているが、あくまでも今日の「自立活動」を改善するための基礎的視点を提供することが目的である。

4. 研究報告の概要

今回は、①光明の歴史の概要、②光明における養護・訓練、③東京都における養護・訓練の体制整備、について報告を行う。①については博士論文までの研究に概要を加えたもの、②と③については現在までの分析の状況を報告する。

註

- 1) 光明は、1932（昭和7）年に「東京市立光明学校」として開校した、日本で最初の肢体不自由児学校であり、約30年にわたり日本で唯一の肢体不自由児学校として教育実践を積み重ねてきた。なお、第二次世界大戦中には、1945（昭和20）年5月～1949（昭和24）年5月まで4年間にわたり長野県上山田温泉（当時上山田村）に疎開を余儀なくされた。
- 2) 肢体不自由教育では、1963（昭和38）年に初の学習指導要領が文部省事務次官通達（試案扱い）で出されており、その前後10年程度を概ね研究対象時期としている。
- 3) 現在、日本学術振興会科学研究費補助金（JP16K17467）の助成を受けている。
- 4) 臨床心理学者の成瀬悟策が提唱した、脳性まひ児の身体運動を理解し、不自由さや動きの困難を改善する目的で開発された心理リハビリテーションである。動作訓練から発展した動作法は、肢体不自由特別支援学校で最も活用されている指導技法の1つである（中井・高野 [2011] 177）。
○中井滋・高野清（2011）特別支援学校(肢体不自由)における自立活動の現状と課題(1). 宮城教育大学紀要, 46, 173-183.
- 5) 「個々の生徒が自立を目指し、障害に基づく種々の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達の基盤を培う。」ことを目的とした、特別支援教育特有の領域。